

「三陸津波伝承施設」～田老防潮堤～ 岩手県宮古市

三陸のリアス式海岸の複雑な地形は、私達にすばらしい景観や良好な漁場を提供しているが、一方でその地形により、津波のたびに大きな被害をもたらしてきた。

宮古市田老町（旧田老町）はこれまで数十回にわたる津波から立ちあがるため、昭和9年から昭和53年までの長い年月をかけて建造した、延々2,433mにわたる「万里の長城」を思わせるような防波堤が全市街地を囲み、背後住民の暮らしを守る上で重要な役割を果たしてきている。



田老防潮堤

明治29年の明治三陸大津波では高さ15mの大津波が、昭和8年の昭和三陸大津波では10mの大津波に襲われた。昭和8年の大津波では、その直後の午前7時に関口松太郎村長は陸路被害第1報を岩手県知事宛に飛脚（消防員）により通報し、その後の急速な救護慰問が呆然自失であった人々を元気づけた。復興には全村民が満州に移住しようとの話すら出た。恒久的な対策は高地移転しかないと言者は唱えた。「漁師が高台に移っては仕事にならない。第一、そんな場所はない。だから防波堤を造る。」と関口村長は主張。

また、関口村長の対応は早く、議会関係の直筆書類（議会招集、津波対策を協議する案件）が役場に残っている。

市街地計画、防波堤築造計画等の百年の大計が翌昭和9年に始動した。このことから、関口村長は“田老再建の祖”といわれ、旧田老町役場に銅像が立っている。

昭和八年三月三日
岩手県知事 田老村長 関口 松太郎
下関伊支庁長 殿（各通）
津波来襲被害及急救方ノ件
今晩午前二時頃豪雨アリ暫ラクシテ大海嘯襲来本付聯
担地ハ勿論海岸部落約五百戸全滅シ人畜ノ無傷無数ナ
リ差当リ救助ヲ要スルモノ左記ノ通りニ候間急速何分
ノ御措置相仰キ度取敢報告ヲ兼ね及上申候也
追テ役場・小学校・無事ニ有之候ニ付申添候
記
一、食料及炊事用具ノ給与
一、衣料ノ給与
一、仮小屋ノ設備費ノ給与
一、負傷者救護ノ為メ医師ノ派遣

被害第一報

みどころ



- 浄土ヶ浜：さながら極楽浄土の如しと感嘆し名付けられたと伝えられる景勝地
宮古市観光課 ☎0193-62-2111
- 三王岩：高さ50mの男岩を中心に女岩、太鼓岩が並ぶ奇岩景観
宮古市田老総合事務所産業観光課 ☎0193-87-2973
- 県立水産科学館：浄土ヶ浜近くにある全国初の水産専門の科学館
☎0193-63-5353